

解消めざし 共につながる

「女性の貧困」考えた

福井実行委
講演と討論

「女性の貧困」をテーマにした講演やパネ

ルディスカッションの企画が2日、福井市の県教育センターで実施されました。反貧困キ

ャラバン2017福井実行委員会の主催で約100人が参加。神戸親和女子大学講師の芦田麗子さんが「見えない女性の貧困」と題して講演しま

した。芦田さんは、自らも取り進む、シングルマザーの支援活動を紹介しながら、ドメスティックバイオレンス(DV)などで離婚した母親が非正規雇用や不十分な社会保障制度による貧困で孤立を深める実態を報告。最低賃金の低さに加え、「女性



女性の貧困について考える参加者ら=2日、福井市

は家事・育児を担い、家計補助的な働きをするのが前提の社会や社会保障制度になっている」と問題を指摘しました。

福井県の子ども家庭課職員が県内のひとり親家庭の現状を報告し、子どもに関する悩みに「教育・進学」を挙げる家庭が5割超、母子家庭の母の平均年間勤労収入が122万円などとなりました。

親の女性が「アルバイトを二つ三つかけもちしている人も少なくなっている」「生活のために働き、働けば子どもをみられない板挟みです」と話しました。

参加者らは、貧困問題が社会全体の問題であり、解決する責任を自覚して共につながり、解消をめざす集会アピールを採択しました。